

【令和6年度第2回秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会】

日 時 令和7年3月5日(水)10時
会 場 秋葉区役所4階401会議室

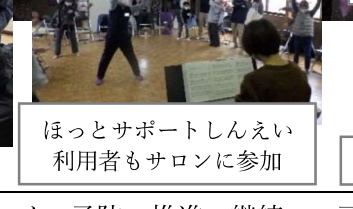
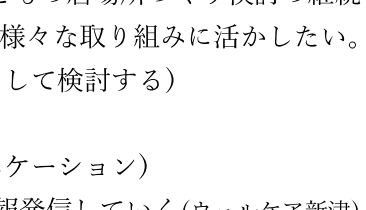
令和6年度第2回
地域福祉活動計画地域福祉懇談会（ふり返し）
各地区まとめ

地区名 **新津中央地区**

今年度の取り組み	・第一中学校パートナーシップ事業会議（5/22）・二の丁よつば会正式オープン ・新津中央コミ協専門部合同会議（5/31）・本町2丁目1区と企業(明治安田)の清掃活動(6/16) ・自学ひろば（年間23回） ・地域福祉懇談会（7/2） ・三善道の会（自学）訪問（7/31） ・「秋葉1丁目町内会と新津高校との支え合い除雪」打合せ(8/9、9/5) ・善道1丁目自主防災訓練打ち合わせ（9/27）訓練（10/26） ・みんなの広場下興野町立ち上げ（打ち合わせ7/2、8/23、9/13、10/2、オープン11/8） ・第一小学校3年生総合（10/8三善道絆の会、10/17サロンなのはな、10/18三善道サロン） ・歳末見守り事業説明会(10/23)⇒実施:12自治会、町内会 ・自治会、町内会による児童登下校の見守り、除雪(通年) ・第一中学校と地域参加の防災学習会(11/15) ・支え合いのしくみづくり新津中央地区会議(12/19) ・秋葉3丁目高齢者の見守りの取り組み(70歳以上世帯への緊急情報キット配布、敬老祝い訪問等) ・地域連携による歳末見守り事業の実施(10町内：田家2は緊急情報キットのアンケート調査実施)
課題	・自学ひろばが他の学年の保護者からも要望があるが、人員の関係で対応が難しい。 ・緊急情報キット配布後の情報更新の啓発について町内ぐるみで取り組む必要がある。薬局や薬剤師会等と連携できないか。 ・子ども達と地域がつながる為に学校にも地域福祉活動について知っていただき、地域PTAにも関わってもらえると良い。 ・地域の取り組みについて知りたい(一中Co) ・区社協は今後大事になる活動を地域と共に行っている。住民にどう伝えるか考える必要がある。
評価	・自学ひろばは年々参加者が増えており、学校支援会の先生方と連携して良い活動が出来ている。 ・歳末見守り事業は、町内会と民生委員が連携して訪問することで互いにつながる良いきっかけになった。また、訪問先では話をしてくださり反応は良かった。 ・地域の居場所「二の丁よつば会」「みんなの広場下興野」を立ち上げることができた。参加者の励みになっている。 ・高齢者の見守りや避難行動要支援の担当等取り組みを通して把握している。
活動の様子	 みんなの広場下興野  一小3年生総合学習 講師：三善道絆の会  善道町1丁目自治会 自主防災訓練  二の丁よつば会  自学ひろば  歳末見守り事業説明会
次年度へ向けて	・自学ひろばの継続 ・民生委員と町内会役員が連携した歳末見守り事業の訪問を継続していく。 ・緊急情報キット配布及び更新の取り組みをコミ協と自治会・町内会と連携し継続する。 ・子ども達をからめた地域福祉活動の取り組みを考えていく。 ・地域と一緒に防災学習会を次年度も開催予定。(新津第一中Co) ・コトイロ日和(障がい者就労施設)としても地域交流を図っていきたい。 ・緊急情報キットや困りごとに関するアンケートをまとめて今後活かしていきたい。(田家2)

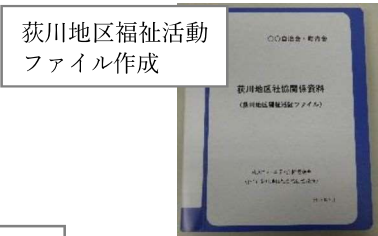
〔参加者〕新津中央コミ協：中村会長、小林副会長、小野沢副会長、本望事務局長、辻川会計、三澤健康福祉部副部長、地域教育コーディネーター：山口コーディネーター(新津第一小)、池野コーディネーター(新津第一中)、町内会：安達会長(秋葉3丁目)、五十嵐会長(新津本町4丁目)、コトイロ日和：高橋管理者
秋葉区社協：横山事務局長補佐(地区担当)、加藤(支え合いのしくみづくり推進員)

地区名 **新津西部地区**

今年度の取り組み	・天神居場所立ち上げ打ち合わせ（4/20）、開所（6/8） ・「美善町茶の間の会」立ち上げ（4月） ・地域福祉懇談会（5/11、1/19） ・美幸町生活支援活動「ビジネスみゆき」（通年） ・新栄町、緑町支え合い移動支援ふり返り（5/13、11/19） ・フレイル予防講座 ・さつき野2・3、4丁目情報交換会（6/3） ・敬老祝いの訪問活動（山谷町1、天神、美幸町） ・歳末見守り事業打ち合わせ（7/1、9/26）、説明会（10/19）、古田町内会（11/9）、美幸町町内会（12/5）、山谷2.3丁目町内会（12/6）⇒実施:5町内会 ・支え合いのしくみづくり新津西部地区会議（11/18）
課題	・コミ協の子どもの居場所を試行してみたが、子どもを見守る人員について検討が必要である。 ・防災訓練の起震車体験は好評だった。現在は町内会を限定しているので全体でできると良いが、会場をどこにするかが課題である。 ・家族表が古く実態がわからない為、国勢調査と併せて家族表を取りまとめたい。（美幸町） ・美善町のサロンを立ち上げたが参加者が固定しつつある為、PRの工夫が必要である。 ・個別避難計画については、災害時の助け合いについて検討が必要ではある。福祉専門職と一緒に取り組む必要もある。 ・若手入社も無く人員不足である。配食サービス（区より受託）利用者が増えていない（ウエルケア）
評価	・町内会と民生委員連携による歳末見守り事業の取り組みを広げることができた（古田町内会、山谷町1、山谷町2.3、南町二区、美善町）。対象者からも喜ばれた。県外の家族にも話を伺えた世帯があった。 ・敬老祝いに子どもと町内会で訪問し祝い品に添えた子どもの手紙は大変喜ばれた。（山谷町1） ・フレイル予防講座の参加者が増え、認知度が上がった。 ・「サロン天神」を立ち上げたことで町内の状況がよくわかるようになった。参加率も良く、コミ協だより等のPR効果があった。リハステーションてんじんと関係も良好である。（天神） ・「ビジネスみゆき」の活動が約60件に増え、依頼者から喜ばれている。（美幸町）
活動の様子	天神笑和会「サロン天神」 会場:リハステーションてんじん  新栄町・緑町支え合い移動支援 (ほっとサポートしんえいと連携)  歳末見守り事業 説明会(コミ協)  移動支援全体ふり返り  ほっとサポートしんえい 利用者もサロンに参加  歳末見守り会議(古田)  歳末見守り説明会(山谷町2.3丁目) 
次年度へ向けて	・緊急情報キット推進の継続・フレイル予防の推進の継続 ・子どもの居場所づくり検討の継続 ・生活支援(美幸町)、移動支援(新栄町)の継続 ・家族表を集めて様々な取り組みに活かしたい。 ・歳末見守り事業の拡充(配布物は新津西部地区全体の取り組みとして検討する) ・新津一中との防災講座の継続(子ども達が主体的に学べるもの) ・つながりの機会や見守り活動の推進(飼犬等を介したコミュニケーション) ・地域福祉活動をしたい考えはある。今後も地域福祉懇談会で情報発信していく(ウエルケア新津)

〔参加者〕 西部コミ協：蓮沼会長、奥山副会長、小菅副会長、内田副会長、江口事務局担当、
 新津西部民協：佐藤会長、 町内会：明間会長(天神)、中村会長(山谷町1)、田邊会長(山谷町2.3)、
 五十嵐会長(南町二区)、 (株)ウエルケア新津：杵鞭社長
 秋葉区社協：横山事務局長補佐(地区担当)、加藤(支え合いのしくみづくり推進員)

地区名 荻川地区

今年度の取り組み	・荻川地区社協スタッフ会議（5/10、7/5、9/6、10/4、12/6、1/10）・荻川やすらぎの間(通年) ・認知症講演会打ち合わせ（5/18）、講演会（7/7） ・おぎかわあったかネット(通年) ・地域福祉懇談会（6/13、1/16） ・新津第二中学校認知症サポーター養成講座（6/21） ・車場ふれまち委員会（7/20） ・荻川地区社協視察受入れ（9/19、中央区山潟地区社協） ・歳末見守り事業打ち合わせ（8/20）、説明会（全体会 9/29、荻島町内会、結町内会 10/1）、ふり返し(車場町内会 2/14)⇒実施 10 自治会、町内会 ・相談先一覧表作成（全戸配布） ・荻川地区福祉活動ファイル作成（自治会・町内会長配布） ・支え合いのしくみづくり荻川地区会議（10/24） ・荻川子ども食堂(荻川、川口) ・荻川地域福祉推進連絡会議（11/21） ・結小学校福祉教育（11/25）
課題	・おぎかわあったかネットや荻川やすらぎの間の利用者、参加者を増やしたい。 ・車場福祉委員会のメンバーが交代しても活動できるしくみが必要である。 ・若い世代との関りで考え方の相違がある。 ・長割お茶の間サロンに来られない人の対応が課題 ・区からの避難行動要支援者名簿、個別避難計画については課題が多い。 ・施設及びサービスにつながっていない方がどうしたらつながるかが課題である。（いしずえ） ・介護が必要な方で、本人が介護を必要としない場合の対応が難しい。地域連携が必要。（包括）
評価	・おぎかわあったかネットの取り組みが 17 自治会に増え、7 町内で連絡会議を実施。利用者の健康状態や生活状況がわかるようになった。（中野 5 丁目が見守りの必要性から取り組みを開始） ・荻川やすらぎの間では法人の協力で送迎を開始。遠くに住む家族も安心の声をもらっている。また、参加者に大変喜ばれており仲間づくりの場になっている。 ・困ったときの相談先一覧表を作成および全戸配布し、自治会・町内会長等で好評である。 ・荻川子ども食堂は、かもしん等の助成金とりんご園や個人の寄付を得ており、支援の輪が広がっている。 ・地域連携による歳末見守り事業の取り組みを更に広げることができた。荻川小と結小の子ども達の手紙や結小からのしめ縄飾りも大変喜ばれた。 ・歳末見守り事業は町内会と民生委員と一緒に訪問することに意味がある。ひとり暮らし高齢者にとっても町内に知ってもらうことで安心につながっている。
活動の様子	      
次年度へ向けて	・おぎかわあったかネットの継続(自治会・町内会、民生委員、協力員、老人クラブ等と連携) ・緊急情報キットの配布、情報内容の更新を継続 ・荻川子ども食堂と川口ほうかご広場の連携の継続 ・荻川やすらぎの間の参加者が増えるよう「広報おぎかわ」に掲載し PR していく。 ・住民を対象にした認知症講演会を開催し、認知症の理解を更に広げる。 ・歳末見守り事業の配布物品について検討する。（コミ協全体で揃えるか又は社協で用意した物に町内独自の物を加えるか） ・地域の祭りや健康祭りへの参加(おぎの里) ・地域と連携し、防災に力を入れる。（藤の木原福祉会）

〔参加者〕 荻川コミ協：窪田会長、加納副会長、中村副会長、田中副会長、鈴木事務局長、
 荻川地区社協：関代表、星副代表、関道子副代表、曾我スタッフ、自治会・町内会：田中会長(あおば通町内会)、
 加納会長(こがね町)、田村会長(中野連合町内会)、伊藤会長(荻島自治会)、渡辺会長(車場町内会)、
 荻川民協：中野会長、横山副会長、高橋会計、福祉施設関係：羽深主任 CM(包括新津)、伊庭施設長(地域活動支援
 センターいしずえ)、佐藤理事長(藤の木原福祉会)、栗原士長(おぎの里)、
 秋葉区社協：横山事務局長補佐(地区担当)、加藤(支え合いのしくみづくり推進員)

地区名 満日地区

今年度の取り組み	・満日地区福祉懇談会（6/29、1/18） ・満日声かけ訪問（毎月1回） ・歳末見守り事業（10/7 打合せ） ・買い物送迎支援（隔週火曜） ・ふるさと健康講座（年間10回） ・まんまるサロン（毎月1回） ・休日親子ふれあい広場（6月、9月） ・文化祭（11/2、11/3）
課題	・買い物送迎支援にて、お盆などの連休時、事前に実施日等の活動の相談ができるとよい。 ・買い物送迎支援の継続のため、事業所等の負担軽減を工夫していきたい。 ・高齢化が進み、深刻な状況になる世帯が増えると思われる。声かけ訪問を含め、様々な面からのつながりを考える必要が出てくる。 ・ふるさと健康講座の新規参加者がいない。声かけは行っているが、移動手段の課題の声が出ている。まんまるサロンと合わせて月2回の参加は難しいのか、開催の検討が必要。 ・老人クラブは年をとって先のない人が入るイメージを持たれている。 ・コロナ禍で閉じこもりが増えたため、老人クラブの活動が大切である。
評価	・買い物送迎支援は、利用されている皆さんから喜ばれている。事業所としても喜びの声があることで、やりがいにつながっている。負担も特になく、事業所の利用者も役割があり、楽しみにしている。 ・声かけ訪問は、困りごとや体調の話など、関係づくりができています。いま出来ていることの継続が重要である。 ・休日親子ふれあい広場では、友達同士で参加できるように工夫し、昨年度に比べ参加者数が増加した。 ・文化祭は、癒しの福祉ゾーンの各施設も含めて、初めて200名を超える参加があった。芸術文化になじみのある団体がある限り継続していきたい。
活動の様子	買い物送迎支援  満日声かけ訪問活動  地域福祉懇談会 
次年度へ向けて	・買い物送迎支援の継続。事業所利用者も一緒に買い物できるような、地域と一体的な取り組みを検討。 ・声かけ訪問で、民生委員等との情報共有の場やふり回り会を考えていく。 ・健康維持を進めていくため、総踊り体操養成講座を受け、体操を広げていく。 ・文化祭では展示に限らず、お茶飲み等の交流できる場を設け、地域でつながる機会を検討する。 ・休日親子ふれあい広場は子どもを含めた地域が遊ぶことのできる場として、旧満日小学校を活用しながら継続していく。 ・交流の場とコミ協との連携について検討する。（老人クラブ）

〔参加者〕 満日コミ協：菅井会長、杵鞭副会長、大田副会長（満願寺町内会長）、柳澤副会長（七日町町内会長）、小濱会計、杵鞭事務局長、小池事務局次長、小檜山教育・文化部部长、皆川環境・安全部長、皆川福祉・健康部長、帆苺福祉・健康部員、杵鞭福祉・健康部員、小濱福祉・健康部員、高橋福祉・健康部員、山田福祉・健康部員（七日町民生委員） 満日地区社会福祉部会：井上部員、田中部員（満願寺民生委員、満願寺老人クラブ会長）、帆苺部員（七日町老人クラブ副会長） 癒しの里連絡協議会：はさぎの里 鶴巻様、けやき福祉園 佐藤様、ぶどう工房 志田様 秋葉区社協：横山事務局長補佐、小林

地区名 **新津東部地区**

今年度の取り組み	・新津東部地区福祉懇談会（5/16、1/23） ・草水町町内会（11/23 草水町防災訓練、1/12 見守り活動についての講座） ・歳末見守り事業（10/19 全体説明会、12/21～28 実施） →8 自治会町内会（北上、滝谷本町、柄目木、飯柳、新町、草水町、金沢町一丁目、金沢町 2.3 丁目） ・滝谷町町内会ゴミ出し支援（11/20、12/4、1/22 検討会、12/22 代議員説明会） ・飯柳自治会ゴミ出し相談（11/6） ・緊急情報キットの周知 ・常任委員・福祉委員合同研修会（2/15）
課題	・地域の役員が歳末の見守り活動について知らず、周知が不足していると感じた。 ・今年度の歳末見守り事業は、友愛訪問との兼ね合いや持参物品、説明の方法など、検討する必要がある。 ・見守りなどの活動は隣組が中心となるが、隣組長の役割が増えている。活動できない人もいるので、役割を検討していく必要がある。 ・草水町では、見守りは民生委員中心ではあるが、民生委員だけでは難しいので、町内会も関わっていく必要がある。 ・個人情報の課題があるため、見守りの押し付けは避ける。 ・除雪に困っている世帯がある。自治会で話し合っていると良い。 ・ゴミ出し支援は制度等、あるものを活用してほしいが、利用へのハードルが高く感じる。
評価	・歳末見守り事業の対象者からは大変喜ばれていた。活動に取り組むことで、コミュニティの必要性を更に感じる事ができた。 ・地域への周知があったからこそ、自治会が取り組むきっかけとなった。 ・見守り活動を足掛かりとして、地域のちょっとしたことでつながる機会が大切になる。 ・初めて見守りに参加するボランティアがおり、地域の活動を知る機会とすることができた。 ・緊急情報キットを年齢関係なく届けることができた。情報更新にも取り組みたい。 ・家族票に緊急連絡先を入れたが、アパートも含めて記入してくれる人が多い。 ・ふれあい福祉サービスのゴミ出し支援で活動している人がおり、町内で活動者が増えるようなしくみを考えたい。
活動の様子	歳末見守り事業  滝谷町ゴミ出し支援  草水町  防災訓練  見守り講座
次年度へ向けて	・支え合いは地道に続けることで広がると思われ、歳末見守り事業は継続して取り組んでいきたい。持参物等の取り組み方については検討していく。 ・孤独・孤立の課題に向けて、見守り活動については全面的に考えていく。 ・北上でゴミ出しの個人ボラの周知を検討する。 ・飯柳で生活支援について検討する。 ・家族票を活用しながら、組長を中心に、災害時の支え合いについて検討していく。

[参加者] 新津東部コミ協：石澤会長 新津東部地区社協：古川会長、中野副会長、和泉会計

新津東部地区民児協：小林会長、木津副会長、馬場副会長 包括にいつ日宝町：吉川社会福祉士

秋葉区社協：横山事務局長補佐、小林

地区名 阿賀浦地区

今年度の取り組み	・阿賀浦地区地域福祉懇談会（6/28、1/28） ・緊急情報キットを活用した見守りについての検討会（7/22 東町、大安寺、7/24 中新田、7/31 新金沢町、8/23 東金沢） ・大安寺緊急情報キットの周知（9/16 敬老会、10/6 防災訓練） ・新金沢町自治会の見守り活動について（6/10 うぐいすの会・6/12 立ち寄り「しんかな」にて聞き取り、6/15～30 全戸アンケート実施、10/15 班長へアンケート結果の説明、10/4・11/15・12/20 検討会） ・歳末見守り事業 説明会（10/31 全体説明会、11/29 中新田）→1 自治会実施（中新田）
課題	・緊急情報キットは、周知や更新など、自治会ごとにそれぞれの課題がある。 ・歳末見守り事業について、役員と意見交換ができなかったため、次年度に検討したい。 ・見守りに取り組む中で、地域のデータが更新されておらず、進展がない。 ・敬老会や防災など、いろいろな面から見守りを考えても良いのではないか。 ・避難所運営委員は検討することが多く、自治会役員だけでは難しい。 ・避難所について、地域住民が知るための勉強会もできるとよい。
評価	・東金沢の点検表が緊急情報キットに取り組む中で、全自治会に波及している。 ・歳末の見守りは実施できなかったが、緊急情報キットで訪問することはできた。 ・歳末見守り事業は訪問対象者からとても喜ばれた。民生委員が事前に説明をしてくれていたため、当日はスムーズに取り組むことができた。 ・避難所運営委員の中で課題を出し合い、勉強を深めることができている。防災士や県職員など多様な人と話し合っている。
活動の様子	大安寺 キットの周知  歳末見守り事業  新金沢町見守り事業 
次年度へ向けて	・緊急情報キットは、自治会ごとの検討を基に、課題に対して地域の見守り活動の中で取り組んでいく。 ・歳末見守り事業は民生委員や地域の方と相談をしながら、可能な限り実施を検討していく。 ・小須戸地区のように、コミ協単位で見守りについて情報交換ができるとよい。 ・避難所運営委員について地域（自治会）の中で考えていく。 ・避難所等の防災については、住民に知らせることが重要なため、実践を含めた勉強会や広報等を検討する。

〔参加者〕 新金沢町自治会 柿本会長、重川副会長、吉川民生児童委員、鈴木民生児童委員
 東町町内会 湯田会長（コミ協事務局長）、高橋民生児童委員
 東金沢自治会 遠藤会長、石川副会長、名古屋副会長
 大安寺自治会 坂口民生児童委員、徳永主任児童委員
 中新田自治会 荒木会長、佐藤民生児童委員
 秋葉区社協 横山事務局長補佐、小林

地区名 **新関地区**

今年度の取り組み	・新関地区懇談会（6/20、1/21） ・三者（小学校・保育園・コミ協）合同避難訓練、防災講演会（6/14） ・消防訓練（4月、10月） ・七夕福祉のつどい（7/21） ・歳末見守り事業検討会（9/30） ・バスの移動支援について ・新関ふれあいまつり（10月） ・青色パトロール隊 ・肺がん検診（6月）
課題	・歳末見守り事業は、見守りの在り方について検討の必要がある。 ・肺がん検診を骨密度等の検査と同時に実施したが、参加者が多すぎて帰られた人がいた。開催の方法を考えていく必要がある。 ・部員が高齢化している。社会状況からも介護や生活支援、認知症について考えていく必要がある。移動や除雪の課題について、自治会ごとに検討していく必要がある。 ・新津第五中学校圏域は、買い物と通院に不便を感じる人が多い。
評価	・三者合同避難訓練は、学校との連携もでき、有事に備えた訓練を実施できた。 ・七夕福祉のつどいを今年度から再開し、児童クラブも関わりながら、子どもを交えた多世代の交流の機会とすることができた。「地域で子どもを育てる」ということにつながっている。学校も地域の取り組みに理解があり、地域の文化や伝統を子どもに伝えている。 ・全国的に事件等が増えている中で、青色パトロール隊の取り組みにより、防犯活動とすることができている。 ・冬場は雪道が危険ということで、少しでもバスを利用しやすいように、経路を住宅を通るよう工夫することで、行事の参加者が2.5倍に増加した。 ・新関地区の中には、自治会の中で通学路の除雪に取り組んだり、散歩している人がゴミを拾ってくれたり、何気ない活動をしている人も多い。
活動の様子	三者合同避難訓練 防災講演会 七夕福祉のつどい
次年度へ向けて	・三者合同避難訓練や防災講演会は継続し、次年度は図上防災訓練の実施も検討する。 ・七夕福祉のつどいは、新しい内容を工夫しながら継続していきたい。 ・健康福祉部で介護や健康、認知症について等の講演会を開催していきたい。 ・歳末見守り事業の検討。 ・青色パトロール隊は継続して活動する。 ・バスの経路を住宅を通るようにする工夫に取り組めていない自治会もあるため、地域の移動の課題については継続して検討する。 ・地域活動を時代に合ったものに見直し、新しい人が入れるように検討していく。

〔参加者〕 新関コミ協 渡辺会長、松田副会長、山崎会計、吉田事務局長、間防災部長、繁野福祉健康副部長、土田福祉健康部員、渡辺児童クラブ運営部長

包括にいつ日宝町 吉川社会福祉士

秋葉区社協 横山事務局長補佐、小林

地区名 小合地区

今年度の取り組み	・地域福祉懇談会（6/19、1/29） ・なじらて訪問（7月、12月） ・歳末見守り事業打ち合わせ（11/20）、実施（12/19～21） ・小合小学校、小合東小学校4年生総合学習（サロン交流各2回） ・支え合いのしくみづくり周知（大鹿ふれあいサロン11/24） ・コミセンサロン（8/3） ・小合地区民児協認知症勉強会（3回）、住民向け認知症講座（12/18）
課題	・なじらて訪問(年2回)の半年で亡くなられた方や入所等で変動がある。訪問の頻度を増やすべきか。 ・自治会役員は働いているため、訪問が会長のみだったり、曜日が限られたりと制限がある。 ・家族と暮らしていても日中ひとりになる高齢者が多く、そういった方も対象となるといい。 ・コミセンサロンでは目的でもあるサロンのない地域の方の参加が少なかった。地元で開催されることが一番ではあるが、難しい地区もあるので工夫をして継続したい。 ・サロン運営は、高齢化や参加者減少等課題が多く、高齢者が運営するのは大変である。 ・高齢化に伴った車の免許返納も増えてきている。免許返納は必要なことでもあるが、足(移動)の問題が出てくるので、コミ協でも考えていきたい。
評価	・継続して見守り訪問をしていると対象者が年を重ねることでの変化が見えてきた。地域の状況も把握できる。 ・歳末見守りでは、民生委員だけでなく、より身近な近所の人との訪問なので、対象者の表情もとても良い。歳末見守りの際に渡す子どもたちの手紙はとても喜ばれている。名前が読めないこともあるので、フリガナがふってあると尚良い。 ・訪問を断っていた人にも声をかけ続けたことで了解してくれることがある。それが心と心の交流であり、見守りの大きな役割である。 ・小学校の総合学習によるサロンとの交流をきっかけに通常のサロンにも小学生が遊びに来てくれて、新たな交流が生まれた。サロンをやめることも考えたが、今後も継続することになった。 ・認知症講座では参考になったという声が多かった。今後は当事者・家族から認知症であることを言える地域づくりを地域(自治会、民生委員、サロン等)が一緒になって進めていけたらよい。 ・災害時の情報伝達を見直し、訓練を行った。地域の被害状況の周知(広報)をしてほしい。 ・自治会の募金活動を手渡しで行っており、これも見守りのひとつである。
活動の様子	     歳末見守り事業 打ち合わせ なじらて訪問 コミセンサロン 小合地区民児協 認知症に関する取り組み 住民向け講座 勉強会
次年度へ向けて	・見守り訪問活動(なじらて訪問・歳末見守り)の継続 ・なじらて訪問の対象や実施回数等の検討 ・サロンのない地域の方の参加やノウハウを学ぶ場としてのコミセンサロンの継続と工夫 ・災害時の小合地区の被害状況の周知(広報)の検討 ・認知症について地域と連携した取り組みの計画 ・サロン運営における様々な課題に対する検討（支え合いのしくみづくり会議）

[参加者] 小合コミ協：阿部会長、野瀬山副会長、高橋副会長、今井事務局長

地区社協：＜自治会・町内会＞伊藤幹事(大鹿)、井村幹事(栗宮)、古川幹事(小屋場)、岡田幹事(梅ノ木)、小田幹事(出戸)、＜サロン＞鈴木幹事(大鹿)、吉田幹事(とき)、大竹幹事(子成場)

小合民児協：古田会長、渡辺副会長、田村副会長、内藤委員、小林委員、高橋委員、大橋委員

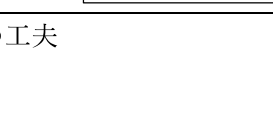
地域包括支援センターこすど：木村センター長 秋葉区社協：横山事務局長補佐、藤田

地区名 **金津地区**

今年度の取り組み	・地域福祉懇談会（5/26、1/18） ・地区社協「地域の茶の間いっぷく」送迎支援 実施 ・防災訓練（6/16） ・小中合同防災訓練（9/18） ・西島自治会 認知症講座（10/13） ・歳末見守り事業打ち合わせ（3自治会町内会 10/31、西島自治会 12/8）、実施 ・金津小学校4年生 総合学習（サロン見学 12/13） ・様々な見守り活動の継続 ・金津地区民児協 福祉活動に関する研修会（5/22） ・各自治会における防災訓練や事業の工夫
課題	・自治会役員は働いている人も多く人手不足である。さらに地域からの要望は多く、取り組むことが難しい。 ・見守り活動では、認知症や難聴など対応が難しい。また、友愛訪問や要支援者名簿等、対象者がイコールではない。要支援者名簿に載っていない人でも支援が必要な人もいる。 ・子どもが参加できる行事が自治会には少ない。子どもが参加できるよう子どもを中心とした取り組みを考えていく必要がある。 ・茶の間のタクシー送迎支援はタクシー不足もあり、確保はするが再確認も必要である。 ・防災の取り組みについて、同じ人で行うことでマンネリ化したり、要支援者の避難計画の作成の難しさなど、課題が多い。 ・コミ協の防災訓練に要支援者等で参加したいが参加できない人をどう参加してもらうか。 ・コロナ禍でPTAから離れてしまったびいす金津をPTA主導の活動に戻す転換期である。
評価	・歳末見守り訪問では会話を通して気持ちよくお互いに交流できた。やりがいがあり、これをきっかけに見守りに取り組んでいくなかで感じた。 ・老人クラブ等の方より除雪やごみ出し支援に協力いただき、町内で高齢者が重要な担い手となっている。 ・防災訓練後の認知症講座など各種取り組みが評判が良かった。参加してもらうことで地域がつながり助け合いが進む。多くの人が参加する工夫が必要である。 ・民生委員が要支援者の把握、見守り等、地域の福祉活動を担ってくれているので、自治会とどのように連携していくか検討していきたい。 ・茶の間の送迎支援は見守りも兼ねており、家族からも喜ばれている。サロン活動は町内の福祉の大事な役割を担っている。 ・金津地区でまごの手サービスを利用している方が少なく、それは地域の力があると感じている。
活動の様子	茶の間送迎支援 西島自治会 認知症講座 金津地区 防災訓練 小中合同 防災訓練 歳末見守り事業 打ち合わせ
次年度へ向けて	・自治会・町内会と民生委員児童委員との連携としくみ ・防災訓練の継続（要支援者の把握の工夫、参加する工夫、要支援者避難計画の検討） ・地域における見守り訪問の取り組み検討 ・びいす金津の事業継続のための意識付け ・見守りを兼ねた茶の間の送迎支援の継続 ・事業を継続するための任期交代による引継ぎ ・児童安全パトロールの継続と連携 ・地域の担い手となる事業の展開（メロディ）

〔参加者〕 金津コミ協：青木会長、齊藤副会長、中野副会長、清田会計、萱森事務長 自治会町内会：鈴木会長(古津)、小池会長(蒲ヶ沢)、植木会長(朝日)、佐久間会長(西島)、伊藤会長(中村)、近藤会長(程島) 金津地区社協：小林委員長、鈴木会計 金津地区民児協：茨木会長、太田副会長、長谷川副会長、高橋委員、沼田委員、小坂委員、山崎委員、小玉委員、酒井委員、長谷川委員、宮崎委員 地域包括支援センターこすど：木村センター長 就労支援事業所メロディ：五十嵐代表 秋葉区社協：横山、藤田

地区名 小須戸地区

今年度の取り組み	・地域福祉懇談会（6/10、1/15） ・地域お手伝い隊（会議 4/18、11/21、実施 5 件） ・移動支援実施、ボランティア懇談会（9/17、12/17） ・子どもの居場所サードプレイス（8/6） ・まちセンマルシェ（9/29） ・だんだん・嶋岡（子どもの居場所 夏休み 4 回、ほほえみ交流 7 回） ・歳末見守り事業（打ち合わせ 9/18、12/10、訪問 12/30） ・各茶の間活動
課題	・お手伝い隊の依頼やボランティアが増えてこない。対象が高齢者ということもあり、依頼の電話をすることが大変である。 ・移動支援の運転ボランティアが高齢であることに心配がある。 ・まちセンで行う事業に来たくても来れない人のための移動手段が必要である。 ・子どもたちが普段居れる場所(居場所)がないが、子どもが行きやすい場所や見守りなど課題も多くなかなか進めることができない。 ・中学校の部活がなくなること、子どもたちのスポーツ離れを何とかしたい。 ・茶の間のマンネリ化が見られる。参加者の増加が見込まれない。 ・小須戸地区にタクシーが来なくて困っているという声を多く聞く。
評価	・お手伝い隊でほほえみ(障がい者施設)と一緒に活動はとても順調であり、地域からも受け入れられている。 ・歳末見守り事業で中学生ボランティアとの訪問は、対象者の表情も普段とは違いとても喜ばれている。 ・買い物移動支援では、定期的な会議で課題を改善できている。利用者も買い物を楽しんでいる。また、運転ボランティアを募集したところ 3 名登録があり、新規の協力者が増えた。 ・中学生から企画に参加してもらったことで、大人とは違う発想で気づきが多かった。(マルシェ) ・運営委員会があり、また自治会からの助成金もあり、運営は順調である。(小向の茶の間) ・夏休みには小学生とラジオ体操をしたり、会員同士が支え合ったり、地域の中で縦のつながり(世代間)がある。(水田高齢者クラブ)
活動の様子	 地域お手伝い隊  だんだん・嶋岡  子どもの居場所  サードプレイス  移動支援  歳末見守り事業 打ち合わせ  ほほえみ交流
次年度へ向けて	・お手伝い隊の周知方法(民生委員や包括支援センターと協力)やチラシの工夫 ・移動支援について、買い物支援の継続と新たな課題への検討 ・子どもたちがいつでも行ける居場所の検討 ・歳末見守り事業の継続と中学生ボランティアの増加に向けて中学校との連携 ・より良い茶の間運営に向けた検討（周知、内容、利用料等）

〔参加者〕 小須戸コミ協：木村会長、佐藤副会長(事務局長) 福祉部会：長澤部会長、田中部員
 地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員：土屋委員
 小合・金津・小須戸圏域支え合いのしくみづくり会議：五十嵐構成員、白井構成員
 茶の間・高齢者クラブ：米田様、古川様（小向の茶の間）、河内様（水田高齢者クラブ）
 秋葉区社協：横山事務局長補佐、藤田

地区名 山の手地区

今年度の取り組み	・地域福祉懇談会（6/6、1/21） ・ふれあい食堂（7/27） ・山の手ふれあいまつり（9/14） ・茶の間移動支援（ふれあいの杜）打ち合わせ（7/10） ・矢代田小学校4年生総合学習（茶の間について6/6、茶の間の皆さんと認知症講座6/20、交流2回） ・歳末見守り事業（打ち合わせ9/17、12/10、訪問12/30） ・舟戸1.2自治会防災（打ち合わせ4/24、6/26、8/15、10/3、11/10、講話4/14、防災訓練9/1）
課題	・茶の間（いこてば こいてば ふれあい会館）の参加者が減少しているが、久しぶりの参加や新規の参加がある月もあり、状況がつかめていない。開催時間の変更等を検討していく。 ・ふれあい食堂は初開催という心配もあり、広く広報が出来なかった。今後は多世代の交流の場として検討していきたい。 ・人知笑会の会員、利用者ともに高齢化している。様々な機会に周知しているが、理解してもらっても会員が増えない。女性会員を増やすことも検討したい。 ・小中学生合同防災訓練では、内容や小須戸地区や各学校との連携に合同で行う難しさがある。 ・ふれあいまつりに保護者を巻き込むことが課題である。ボランティアは多くなってきたが、段取り不足もあり、活動の調整が行き届かない状況があった。
評価	・茶の間移動支援について、ふれあいの杜と打合せを行い、前向きに進められそうである。 ・茶の間と小学生との交流を複数回行い、良い交流ができた。小学生の参加によりボランティアのやりがいにもつながった。小学生と交流できる形を考えていきたい。 ・歳末見守り事業は、対象者の笑顔が見られ実施してよかった。今後は自治会からも関わってもらい、地域の実態を知ってもらう機会にしたい。 ・班ごとの話し合いでは、日頃話をする機会がない人とも真剣に話ができたことで、今後気軽に話し合い、いいアイディアが出てくるだろう。（舟戸1.2防災訓練） ・地域の方の協力で、不法投棄が改善してきた。駅周辺のごみ拾いも地域の方も行ってくれる。 ・ふれあいまつりを経験した子どもたちが卒業後ボランティアに参加するなど、子どもたちに変化が出てきている。まちがいなく芽が出ている。 ・子どものSOSに応えたり、認知症の方への声かけなど施設が地域で何が出来るか考えたい。そのためにはつながりが大切であり、駅の花植え等に声をかけてほしい。（ほほえみほのか）
活動の様子	
次年度へ向けて	・地域の茶の間のいこてば こいてば ふれあい会館の開催時間等の検討と移動支援の施設との協定 ・歳末見守り事業の中学生ボランティアの継続と自治会の関わりの検討 ・人知笑会の後継者育成 ・地域の防災力の向上 ・防災に関する福祉施設との協定の見直し ・小中学生合同防災訓練の実施方法、内容の検討 ・舟戸1.2自治会防災への取り組み継続 ・防災キャンプ開催に向けた部会の連携 ・駅周辺の環境美化の呼びかけの工夫 ・花植えの参加から地域とのつながりづくり（ほほえみほのか） ・ふれあいまつりの保護者の関わりに対するアプローチに向けたSNS活用の検討 ・（自治会ごとで）地域で支えるしくみづくり（ごみ出し等身近な困りごと）

[参加者] 山の手コミ協：横山会長、荏原副会長、保科事務局長（福祉部）五十嵐部長、増井副部長（防災・防犯部）坂野部長、古泉副部長（環境部）高野部長（健康スポーツ部）五十嵐部長（ふれあい事業部）井上副部長 小合・金津・小須戸圏域支え合いしくみづくり会議：栗山構成員 ほほえみほのか：又地施設長 秋葉区社協：横山、藤田